

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

6月号

第 59 卷 第 5 号
2014 年

無料
Free

も
く
じ

今月の 1 枚.....	1 ページ
・ 付属園まつりを開催いたしました	
博物館 - フィールドガイド -	2 ページ
・ 針ノ木岳慎太郎祭	
展示・イベントのご紹介	3 ページ
・ 大峰山地の自然なぞ解きトレッキングツアー	
博物館ひろば.....	4 ページ
・ 茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう!	
・ 身近なしぜんのかんさつ会	
・ 居谷里湿原自然観察会	
・ 第3回フラム塾 - 信濃大町食とアートの廻廊 -	



おおまびよんとあそぼう

付属園まつりを開催いたしました

清水 博文

山岳博物館では、北アルプスの山麓から高山に生息する動植物を飼育栽培する付属園(動植物園)を併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、生体展示などの教育普及活動をしています。また、長野県からの依頼を受け大町市周辺地域の野生動物を救護収容しています。

平成 26 年 4 月 26 日から 5 月 6 日のゴールデンウィーク期間中に、「付属園まつり」を実施し、のべ 815 人の参加がありました。この事業は、付属園と動植物を身近に感じ親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動や、付属園の役割について理解を深め、野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的としたものです。

「写生大会」では、付属園内の展示動物を描き、野生

動物の特徴をとらえるとともに、動物愛護の精神を高めて命の大切さを学びました。

動物の解説を聞きながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」では、毎日動物に接している飼育員しか知らない図鑑や教科書には載っていない動物の特性の話なども聞けました。

園内 6 か所に設置した展示動物を絵柄にした飼育員手作りスタンプを楽しみながら押して集める「スタンプラリー」は、最後に特大スタンプを押すことができ付属園への親しみを深めました。

「おおまびよんとあそぼう」は、大町市の動物であるニホンカモシカをモチーフとしてデザインされた当市の公式キャラクターを登場させて、子供たちの興味を引き付けながらニホンカモシカの特徴を理解しました。

(市立大町山岳博物館 副館長)

展示・イベントのご案内

山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。6月は14日（土）と15日（日）です。

大峰山地の自然なぞ解きトレッキングツアーのみどころ

鷹狩山と巨大礫と北アルプス

大町の東山を代表する鷹狩山・南鷹狩山は、今から100万年前に活動した火山から噴出した岩石でできている山です。それはどこにあった火山で、どんな活動をした火山なのでしょう？



大町市、観音橋から見た鷹狩山と南鷹狩山

また、この東山の中腹から山頂部にはところどころに、丸くて角のとれた巨大な礫が転がっているのです。現在の高瀬川の河原でみられるような巨大な礫が、なぜこんな高いところに残されているのでしょうか？



東山、滝の入林道沿いの尾根上にみられる巨大な礫

東山もそこに見られる巨大礫も、北アルプスと大いに関係していると考えられています。このツアーでは、そんな謎解きに挑戦してみましょう。

鷹狩山と人、そして希少野生植物

鷹狩山は、標高1,000mをわずかに超える山です。山頂付近に至るまでカラマツやヒノキ、スギなどの植林地がみられ、博物館側の中腹には畝があり、かつては、耕作地として利用されていたことがわかります。

頂上あたりの植生は、標高からブナが生えることのできる高さなのですが、このあたりも人の手が入っていて、鷹狩山が昔から広く利用されていたことがうかがえます。

いっぽう、この山には、長野県が2014年に刊行した長野県版レッドリストで、絶滅危惧Ⅱ類にランクされたサクラソウや準絶滅危惧種にランクされたササユリの生育がわずかにみられます。両種とも長野県希少野生動物に指定され、勝手に採取することは禁じられています。



ササユリ

ツアーの開催のころには両種とも花はすでに終わってしまっていますが、そもそもサクラソウ、そしてササユリとはいったいどのような植物なのか。この度はそれらを通して、生物、そして環境との関係のなぞ解きに挑戦してみましょう。

大峰山地の自然なぞ解き トレッキングツアー 行事のご案内

□大町市制施行60周年・合併10年記念事業 「信州山の日」制定記念事業

- 主 催 市立大町山岳博物館・大町山岳博物館友の会
- 内 容

大町市の東に位置する大峰山地の誕生の謎を探索する、トレッキングツアーを開催します。今回のツアーでは、信州大学名誉教授でもある小坂共栄山岳博物館専門員といっしょに謎解きにでかけます。

道中では、周辺の植物や歴史の話など博物館学芸員からのためになる?! お話もあります。

□開 催 日 平成26年7月21日（月・祝）

□開催時間 午前9時～午後3時頃の予定

□見 学 地

山岳博物館発～山の子村～鷹狩山山頂～乗越峠～霊松寺～市民の森～山岳博物館着

□募集人員 25名（定員になり次第、締め切ります。）

□対 象 全行程を歩くことのできる方

□持 ち 物 昼食、飲物、雨具、運動靴、筆記用具ほか
※保険加入後のキャンセルには、キャンセル料（500円/1人）がかかります。

□参 加 費 一 般…大人1,500円 小・中学生500円
友の会…大人1,000円 小・中学生 0円
（資料代・保険料などを含みます。）

□申し込み 申し込みは、電話にてお申し込みください。
（電話 0261-22-0211）

なお、申し込み期限は、7月17日（木）です。

博物館のひろば

茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう! 平成 26 年 5 月 11 日 (日) 開催



山岳博物館では、昨夏、立山(富山県)においてライチョウの観察ツアーを実施いたしました。大町市のシンボル鳥でもあるライチョウとはどのような鳥なのか、またどのような環境にすんでいるのかを、実際に現地を観察し、ライチョウを通して高山環境に興味を持っていただくことを目的に開催いたしました。

この度は、日本の動物園ではライチョウの近似種であるスバルバルライチョウの繁殖技術を確認し、それを日本のライチョウを守るために役立てようと試みていることに

ついて、なぜ、そのようなことが必要なのかを知り、日本のライチョウのおかれている現状、高山環境についてさらに理解を深めていただくことを目的に実施いたしました。

講師は、長野県環境保全研究所堀田昌伸研究員と長野市茶臼山動物園田村直也学芸員に務めていただき、堀田研究員からは、「日本にすむライチョウってどんな鳥?」と題して、ミトコンドリア DNA からみた生息域ごとの違いや森林総合研究所との共同研究から、地球温暖化が進んだ場合のいくつかのシナリオを取り上げ、ライチョウの生息地の減少予測についてお話を聞きました。(詳細は 4 月号を参照してください。)

田村学芸員からは、「スバルバルライチョウってどんな鳥?」と題して、スバルバルライチョウの生息地や飼育することでわかったこと、環境省からの協力依頼を受け、これまでにスバルバルライチョウを飼育してきた日本動物園水族館協会加盟

園館を中心に、「ライチョウ生息域外保全プロジェクトチーム」が立ち上げられ、環境省と一緒に日本のライチョウ保全に取り組んでいくことについてお話しいただきました。ふたりのお話を通してこの度の企画の意図を十分にお伝えすることができたと思います。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

本行事は、当館と連携・協力に関する協定を締結した長野県環境保全研究所と山岳博物館友の会・長野県環境保全研究所友の会との共催によるものです。



身近なしぜんのかんさつ

平成 26 年 5 月 16 日 (金) 開催



山岳博物館では、市内小中学校への出張形式授業として、大町東小学校3学年に理科の単元の「身近なしぜんのかんさつ」と「こん虫の育ち方」に対応した観察会を毎年5月中旬に実施しています。

大町東小学校のまわりには、水田や河川(農具川)があり、水辺の生き物を観察するのに適しています。

ホタルの生活史(育ち方)を学ぶにあたり、この時期幼虫であるホタルの餌のカワニナを水路に入り、採集や観察(実際に触れてみる)し、ホタルの一生についての解説を聞き、知識と理解を深め、さらに、水辺の自然環境や生態系についての興味や関心を持たせる内容です。

市内の他の学校でも学校の回りの環境に合った内容での展開が広がればと考えております。

大北地域の湿地植物の生活史研究グループが今年も活躍!



5月4日に大町市生涯学習課主催の「居谷里湿原自然観察会」で、「大北地域の湿地植物の生活史研究グループ」のメンバー2名がガイドを務めました。このグループは、2011年の企画展「くさばなの一生 湿原で見られる植物の生活史~その営みとなぞにせまる!~」を開催するにあたり博物館が公募で立ち上げたものです。観察会では、ミズバショウやリュウキンカの生活の様子や生物とのかかわり、湿地環境との結びつきなどについて触れ、参加者は調査・研究に携わったもののみぞ知る解説に興味・関心を持たれたことと思われま。

使用写真は、企画展に向けて観察していたころのメンバー(居谷里湿原にて)

第3回フラム塾 - 信濃大町食とアートの廻廊 - を開催



去る4月21日、「第3回フラム塾—信濃大町食とアートの廻廊—」が山岳博物館を会場に開かれました。フラム塾は、国内外の芸術祭を多数プロデュースされている北川フラム氏が、統括コーディネーターとして主宰されているもので、今回は講師として当博物館の小坂共栄専門員が「北アルプス廻廊の生い立ちを考える」と題して話題提供しました。100万年を時間単位とする大町の平や西側の後立山連峰、フォッサマグナ側の東山の生い立ちの話に始まって、そこに住んだ縄文の人々の話まで話題が広がり、フラム氏のお話ともあいまって50名近い参加者からたくさんの意見や質問で大いに盛りあがったフラム塾でした。